

月5日

ご門信徒 様

宗教法人 光照寺

住職 濱寄重信

第37回 定例法座 ためして仏教！！ご報告

- 日 時 令和7年10月5日〔日〕 13時半～15時半
- 場 所 光 照 寺
- 必要な物 お数珠 筆記用具 赤本
- 今回のお題

「恩」

スケジュール：

- 13：30 お勤め
- 13：45 座談
- 14：30 法話
- 15：30 終了

恩とは

- ① 恩の意味は、恵むこと。他人を助けること。
仏教語辞典によると「恩」とは、インド語のカタンニューの訳語で、
なされたことを知るという意味です。漢字の恩が、原因を心にとどめ
るという構成であるように、恩とは、何がなされ、今日の状態の原因
は何であるかを心に深く考えることです。
- ② 恩愛
- ③ 恩恵

恩と情け

スーパーボランティアマン尾畠さんが、大切にされている言葉があります。
「かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め。」情けの意味は、慈愛。人
情。思いやり。義理です。人間には、情けをかける事は出来ても、恩恵を与
える。恩を返す事は、難しいように感じます。

人間は与えられている恩を全て知っているのでしょうか？

四恩という言葉があります。（父母の恩、衆生の恩、国王の恩、三宝の恩）
です。すでにそのような恩を頂いています、それを当
たり前と思ってしまうと気づきません。果たしてそのことは、当たり前なの
でしょうか。

恩が恩愛に変わる

人間が恩という行為を行おうとすると、恩愛〈好きなもの〉に変わってしまいそうです。自分にとって何かをしてもらったか、そうでないか、迷惑をかけられたか、かけられていないか、人間の都合・分別・損得が、恩の基準になってしまうからでしょう。そこには、すでに頂いている恩を忘れ、恩に背き、恩に逆らう、煩惱欲望に固執する私の心があるようです。

「喜びの裏にどうしようもない悲しみがにじんでいる。」

朝ドラ『あんぱん』で出てくるセリフです。

『手のひらを太陽に』の歌詞で1番を「生きているからかなしいんだ」2番を「生きているからうれしいんだ」の順番にしたことを問われたやなせさんは、「死んでしまえば、かなしいもうれしいもないです。生きているから、悲しみがあります。生きているからつらいとか、痛いとか、いろんなこと事があるわけ。ですから喜びよりも、むしろかなしみのほうが強い。だからかなしみをさきにもってきたわけです。」とされています。

仏の大悲〈共感〉→報ずべし・謝すべし

大悲とは、大慈悲です。仏の人間への4つの接し方を慈悲〈慈悲喜捨〉と言います。悲という接し方は、落ち込んで、もう頑張れない時にあなたのそばにいるよという接し方です。

小悲は人間の悲しみです。〈人間の悲しみは、自分と関わりのある人しか悲しめない、短時間しか悲しめない、限定的な悲しみです。〉

大悲は仏様の悲しみです。無縁の慈悲とも言われます。全ての存在を絶対に見捨てない。思い続けるという接し方です。絶対的共感（コン〈共に〉パッション〈苦難〉）と言ってもいいのではないかと思います。

すでに仏からの絶対的共感を、過去から今日まで頂き続けた背景に気づいたことを恩や報ずべしと言うのではないのでしょうか。

そしてそれを伝え続けてきた諸仏からかけられていた思いに気づいた時、感謝・謝る思いが出てくることを謝すべしというのではないかと頂いています。恩師から、幸福の量は、謝念の量に等しいと教えられました。恩を頂き続けていたことを知ることが、本当の幸せなのかもしれません。

